



ドクター・ハザマの

バイタルサイン塾 26

求められる「薬のプロ」たる薬剤師

ファルメディコ株式会社
大阪大学大学院医学系研究科生体機能補完医学講座
医師・医学博士 狭間 研至

私が考える「プロ」とは 「普通の人が見えないものが見える人」

プロとは何でしょうか？「professional」とは職業人や専門家を指し、その関連語としての「profession」とは頭脳を用いる専門職を指すというのは、一般的な理解ではないかと思えます。

私も異論はないのですが、少し変わった観点で見ると、プロとは「普通の人が見えないものが見える人」ではないかと思えます。表面上は見えないものが、あたかも目の前にあるように見えるという感じです。

たとえば、私が咳や微熱などの症状を訴える患者さんの診察をするときには、問診や聴診、触診、バイタルサイン測定を行いながら、気管支粘膜が赤く腫れていたり、痰が気道内に分泌されていたりというイメージが頭の中に浮かびます。このイメージを持つことは、感冒や急性気管支炎という病名の診断のもとになります。場合によっては、ウイルス感染を起こした細胞が炎症を起こし、炎症性サイトカインが放出され、発赤、腫脹、血管の透過性亢進などが見られる様子も、イラストとして頭によぎることもあります。

限局した右下腹部痛を訴えられる患者さんで、診察や検査を通じ診断した急性虫垂炎や、術前のレントゲンやCT、気管支鏡などで確定診断に至った肺がんの患者さんも、手術で実際に目の当たりにしたときに、イメージ通りの状態であることは、おそらく外科医にとって珍しいことではないと思えますし、それが外科医というプロの醍醐味かも知れません。

「薬のプロ」である薬剤師には 何が見えているべきか

では、薬剤師はどうでしょうか？ 普通の人が見え

ないものが見える、という観点で読み解けば、私は薬理や薬物動態の知識にもとづき、化合物としての薬剤が、吸収、分布、代謝、排泄される様子が手に取るように見えるというところになるのではないかと、勝手に想像しています。

薬剤がどのようなメカニズムで効果を発揮するのかというのは、もちろん、医師や看護師も治療を遂行する上で頭に入っていますが、それはあくまでも、テキストやイラスト的なものではないかと思えます。もちろん、医師も自分の専門分野の薬剤については、多少詳しいメカニズムを理解している人はいらっしゃるでしょう。

しかし、化合物としての薬剤を構造式レベルで理解し、レセプターへの結合や代謝の過程などに基づいて、患者の中でどのように作用しているのかが見えるというのは、薬剤師しかできないことではないかと思えます。

服用した薬剤が、どのように吸収されて、体内に分布し、代謝、排泄される過程のどの部分で薬理作用が発揮されるのかがモーフィング（ある形状から別の形状に徐々に変化していく様子）のように見えてくれば、薬剤師がバイタルサインや血液検査データを時系列に従って追いかけていく意味合いが、腑に落ちるはずです。

逆に、そういう観点がなければ、薬剤師によるフィジカルアセスメントは「薬剤師ならでは」のものになり得ず、薬剤師のチーム医療参画への意義も少なくなってしまうと感じています。

薬剤師の専門知識を、医療のPDCAサイクルに活かし、医療の質を向上させていくためにも、「見えないモノが見える」薬のプロとしての薬剤師が求められているのではないのでしょうか。